

成長のカギを握るシーズン

オフ3カ月の過ごし方

平成28年11月17日発行・発売（毎月17日発行・発売）
第27巻 第16号 通算327号
平成28年6月16日第三種郵便物認可

Baseball Clinic

●ベースボール・クリニック



DECEMBER
2016

定価 880円

ベースボール・マガジン社発行

◆現場からの声

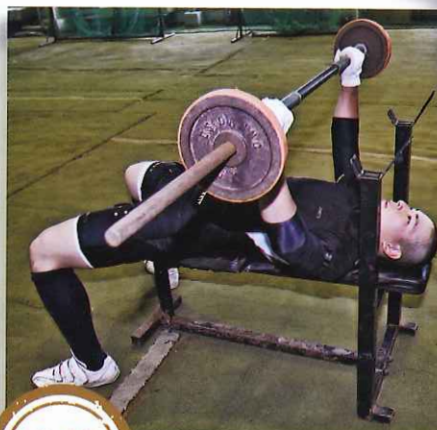
「わがチームの
冬季の取り組み」

菊池雄人

●札幌第一高監督

宮本秀樹

●都片倉高監督



特集

春からの
打撃につなげる

冬季の体力鍛練法



◆トップコメンテーター

山口達也

●滋賀学園高監督

◆わがチームの練習風景

原公彦

●上田西高監督

考察!

「生まれ月による
野球力格差」●第2回

2016年
ドラフト会議検証

◆甲子園「監督の目」

聖光学院vsクラーク記念国際

★第98回全国高校野球選手権大会

風土記

第35回

ヌーベル ベースボールクラブ (千葉)

“自主運営の理念”を選手たちに浸透させたクラブは、歴史を積み重ねながら活動拠点をはじめ多くの運営資源を獲得した。選手たちは「なぜこのチームで野球をやるか？」を考え、実践したことにより、自らの活動内容を充実させている。

取材・構成/根本賢一



▲クラブチームの環境を整備する小枝監督

千葉県内のクラブチームすべての競技環境を整備する必要があると考え、率先して千葉県クラブリーグの立ち上げに取り組んだ。最大の課題はグラウンドの手配であったが、連盟の協力と自治体の理解により、理想どおりのスタートが切れた。そして連盟とクラブのパイプ役として、これからの発展的な提案を求め、関東リーグへの拡大を視野に入れながら、さらなるクラブの競技環境の整備に取り組んでいく。

2度のチーム名変更と新たな取り組み

多くのクラブチームの最大の課題は活動拠点の確保だが、14年から大学野球部O B会との提携などにより定期的にグラウンドを利用することが可能になった。このことを選手たちに意識付けるため、チーム名を活動拠点に因んだ“NITC”へ変更し、新たなスタートを切るとともにチームの活動を充実させた。

以前より高校の野球部を退部した入部希望者の相談を受けていたが、



▲選手たちの自主性のもと、クラブは運営されている

練習のために遠方まで移動をすることもあり、交通手段や事故の際の対応などの懸念から受け入れを断念せざるを得なかった。しかし、活動拠点を確保できたことで、高校生の入部を認め、野球をあきらめた選手たちが再び本気で競技に取り組み再挑戦できる環境を整えた。

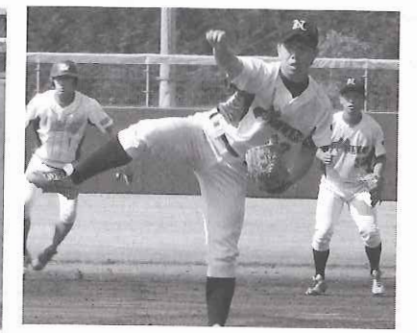
小泉智久投手は、中学生の時は県選抜チームに選出される実力がありながら、高校では1年秋に野球部を退部した。しかしNPBへの夢を捨てきれず、2年からNITCに入部し、現在は主戦投手として活躍している。入部当初は20歳以上年齢差のある選手とプレーすることに戸惑いもあったが、多世代とのコミュニケーション能力が必要な環境で、自己管理や人間性を伸ばすことができた。また、先輩の指導から技術面も成長し、再挑戦できる環境があったことに感謝しながら、夢に向けて練習に励んでいる。

38歳の秋田淳一内野手は、今年初めて主将に指名された。さまざまな球歴を持ちそれぞれの考えがある

選手たちの方向性を合わせる難しさもあるが、副将4人制を導入し、副将を全員20代の選手に務めさせるなどの工夫をして、円滑なコミュニケーション環境を整えている。特に小泉投手をはじめ、高校で一度野球を断念した選手には、このクラブでの活動を通じた高校では得られない経験をするにより、次のステージでの活躍を期待している。

小枝監督は、「高校生にとって、親と同じ世代の先輩選手やスタッフと一緒に活動に取り組むことは貴重な経験になる。1年間でわずかでも心身ともに成長した姿が見られる。先輩選手たちも指導する立場として役割を認識していることも大きな成果である」と高校生の受け入れについて語る。

このような取り組みに賛同した企業が活動の支援を申し出たため、16年秋より“ヌーベルベースボールクラブ”と2回目の名称変更を行った。小枝監督が環境を整備し、選手たちの自主的に運営方針を決める14年間の活動の中で、活動拠点、活動資



▲小泉投手は再び夢に挑戦できる環境に感謝しプレーを続ける

金をはじめとする運営資源を充実させてきた。年初の総会で各選手が決意表明し、毎年その言葉に責任を持って取り組んできたことも大きな要因であろう。

ヌーベルベースボールクラブは、これから平日に活動ができる環境を整備し、さらなる活動の活性化に取り組む、名実ともにクラブ日本一を目指す。



▲クラブリーグにより千葉県のクラブチームの競技環境が大きく変わった

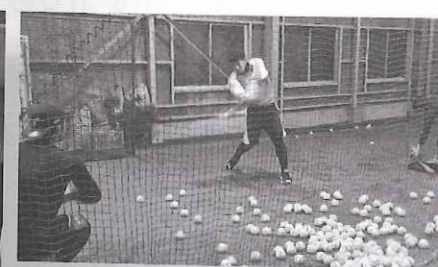
自主運営と 競技環境の整備

千葉県野球連盟に所属するヌーベルベースボールクラブの小枝和人監督は、2000年から約2年間、県外のクラブチームの運営に協力していた。それ以前はクラブチームについて知識を持たなかったが、この経験から社会人になっても硬式野球に一生懸命取り組む選手たちの存在を知った。一部の選手から硬式野球ができる最後の場として、「自分たちが目指す野球ができるクラブチームを設立してほしい」との意見があり、小枝監督に縁のある千葉県を拠点にクラブチームを設立することになった。活動方針は、「選手たちが自主的に

活動内容を決め、責任をもって遂行すること」とし、小枝監督は環境の整備に取り組み、02年に“松戸BC TYR”が誕生した。ただし、まずは千葉県野球連盟の準加盟チームとして1年間大会のサポートを経験し、連盟の方針や運営を理解した上で翌年の03年に正式加盟した。この準加盟の1年が「なぜこのチームで野球をやるか？」を具体的に考える機会となり、当時のメンバーが中心となって現在も選手たちの自主性により運営されている。そのため、競技・運営に大きな浮沈が生じることなく歴史を積み重ねている。

小枝監督は、11年より千葉県野球連盟の常務理事に就任した。自身のクラブの競技環境を整えるには、

“自主運営の理念”の浸透と活動の発展



▲平日練習により活動がさらに充実する

▲秋田主将のリーダーシップにより、クラブの円滑なコミュニケーションが図られている

ねもとけんいち

1968年11月10日生まれ。千葉県出身。千葉県大・高・日本大・龍球クラブ。現役時代は外野手で97年全日本クラブ選手権では準優勝を経験する。2007年熊球クラブ部長に就任。その後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて、社会人野球クラブチームの運営方法を研究。13年3月修士課程修了。現在早稲田大学スポーツビジネス研究所 招聘研究員として活動中。

チームデータ& チームプロフィール

ヌーベルベースボールクラブ

所在地

千葉県松戸市穆台3-62-31

主な戦績

第9回コットンカップ 優勝

スタッフ

監督：小枝和人

マネジャー：田口奈々、遠藤美幸、田中和栄、

中山弘美

トレーナー：萩原優

部員数

45名

ホームページ

<http://nitc.ag-ing.com/index.html>

2002年に“松戸BC TYR”として創部。その年に千葉県野球連盟に準加盟し、翌年に正式加盟した。2度の名称変更を経て、ヌーベルベースボールクラブとして活動している。